

主な施策の取組状況

重点戦略3 呼び込み・拓く



(5)農村地域の活性化

① 農村地域における関係人口の創出・拡大

○ 「とちぎの農村めぐり2024」による農村の魅力発信

- 「とちぎの農村めぐり」LINE公式アカウントを活用したデジタルイベント「とちぎの農村めぐり#とち農ミッション2024」を開催し、約2,000名が参加しました。
- また、インバウンド需要にも対応していくため、公式サイト内に外国語ページを作成したほか、とちぎの農村の魅力を発信してもらう「とちぎの農村めぐり応援隊」に新たに4名の在日外国人を委嘱しました。
- 来年度はとちぎの四季をテーマとした農産物や加工品等のプレゼントキャンペーンを実施予定です。



デジタルイベント
「とちぎの農村
#とち農ミッション
2024」

外国語ページ

「Tochigi-Rural-Discovery」

公式LINE
QRコード

(農村振興課)

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上
機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

○ TUNAGUを核とした魅力発信の強化

- 農村ボランティアマッチングサイト「TUNAGU」会員の獲得や活動の活発化に向け、都市住民等14名と地域団体との交流会を開催し、ボランティア活動(クエスト)の体験や地域との交流を行いました。
- また、TUNAGU特派員による交流会の様子やクエストの体験記事の積極的な発信により、会員は1年間で112名増加、累計で500名を突破しました。
- 今後も、交流会の開催や「TUNAGU」を核とした情報発信を通じて、協働活動への参加促進を図ることで、中山間地域における関係人口の増加を目指します。



農村ファン交流会
(那須塩原市塩原地区)



特派員による投稿記事
(農村振興課)

(5)農村地域の活性化

① 農村地域における関係人口の創出・拡大

○ とちぎ農ある暮らしの推進

- 中山間地域を直接訪れ農ある暮らしへの理解を深める交流会や、とちぎでの農ある暮らしを希望する方の呼び込みに向けた出張相談会を開催しました。
- 交流会には20名が参加し、地域とのふれ合いや農業体験等を通じて、農村での暮らしや農との携わり方を体感しました。また、出張相談会では、23名の相談者に対し、農ある暮らし実践に向けて情報提供やアドバイスを行いました。
- 今後も、交流会や出張相談会などにより中山間地域での農ある暮らしの魅力発信と、将来的な実践者の掘り起こしを図ります。



農ある暮らし交流会
(塩谷町)



出張相談会
(東京都有楽町)
(農村振興課)

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上
機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

○ 大谷地域における都市農村交流の拡大(河内地域)

- 国内外からの観光客で賑わう大谷地区で活動している「大谷グリーン・ツーリズム推進協議会」が、県農業大賞の農業活性化の部で知事賞を受賞しました。
- 同協議会が提供する農村体験メニューは、農産物の収穫から調理、加工まで1日で体験できる充実した内容で、すぐに予約が埋まるほどの人気です。
- 今後も地域の団体と連携し、都市農村交流の拡大を図ります。



大谷グリーン・ツーリズム
推進協議会のスタッフ



体験の様子
(河内農業振興事務所)

(5)農村地域の活性化

① 農村地域における関係人口の創出・拡大

○ 農村ボランティアの活用や交流イベントによる 交流人口拡大(上都賀地域)

- ・ 鹿沼市の中山間地域で活動する「加蘇地区ふるさとづくり協議会」は、都市住民との交流を通じて地域を活性化させる取組を行っています。
- ・ マッチングサイト「TUNAGU」で募集した農業ボランティア協力のもと、昔ながらの手作業によるそばの収穫、乾燥、脱穀作業と、収穫したそばを使ったそば打ち体験イベントにより、参加者との交流を深めました。
- ・ 今後も、耕作放棄地を整備した「カソモの森パーク」を拠点に、都市と農村の交流活動を続けていきます。



「くるり棒」を使ったそばの脱穀作業



そば打ち体験イベント

(上都賀農業振興事務所)

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上
機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

○ はがいちご応援隊による新たな商品開発(芳賀地域)

- ・ 日本一のいちご産地「芳賀地域」への誘客促進のため、飲食店や菓子店が参加する「はがいちご応援隊」を中心に、いちごの商品開発を行いました。
- ・ ワークショップで提案されたアイデアの中から「いちごホットミルク」や「いちごシュウマイ」等のレシピを作成し、応援隊へ配付をしました。その結果、2店舗において、レシピを活用した商品の提供が始まりました。
- ・ 今後も、いちごを核とした芳賀地域への誘客促進に向け、応援隊員とともに活動を盛り上げていきます。



いちごホットミルク



いちごシュウマイ

(芳賀農業振興事務所)

(5)農村地域の活性化

① 農村地域における関係人口の創出・拡大

○ 中山間地域等直接支払制度の集落協定の広域化(茂木町)(芳賀地域)

- ・ 茂木町の「中山間地域等直接支払制度」の集落協定65協定の広域化に向け、町の取組を支援しました。
- ・ 広域化組織の運営上の課題等を整理するとともに、制度の概要や広域化のメリット等に関する集落説明会等を町と連携して開催するなど、広域化に向けた意識醸成を図りました。
- ・ 令和7(2025)年度から始まる第6期対策からは、町全体で1つの協定を締結する形で、農地維持や農村環境保全に取り組んでいけるよう支援していきます。



集落説明会



広域化に向けた臨時総会

(芳賀農業振興事務所)

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

○ 「道の駅那須高原友愛の森」農村レストランにおける運営方針策定及び新メニュー開発支援(那須地域)

- ・ 新たに施設整備される「那須の食のレストランなすとらん」の令和7(2025)年度オープンに向けた取組を支援しました。
- ・ 専門家を交えた検討会や試食会が開催され、新メニューが決定されるとともに、団体客受入やスタッフ不足に対応するための運営方針が策定されました。
- ・ オープン後も引き続き、道の駅が交流人口増加を目指す取組を支援をしてきます。



試食会の様子



検討会の様子

(那須農業振興事務所)

(5)農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上
 機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

② 農村地域での新たな所得向上機会の創出

○ グリーン・ツーリズム研修会の開催

- 実践者のスキルアップや連携強化によって、本県におけるグリーン・ツーリズムの一層の推進を図るため、外部講師を招いた研修会を3回開催しました。
- 延べ161名の参加者が、先進的な取組事例、本質的価値の理解と伝え方、コンテンツ造成のノウハウといったテーマについての知識やスキルを習得するとともに、交流を深めました。
- 今後も、引き続き適切なテーマの研修会を開催し、実践者の活動の拡大を支援していきます。



先進的実践者による
 ディスカッション



専門家による講習
 (農村振興課)

○ とちぎの農村の魅力を海外に発信

- 農村地域へのインバウンド誘客を促進するため、海外にいながらとちぎの農村を体感してもらうオンラインイベントや、海外旅行会社を招請し、農村体験をしてもらうFAMツアーを開催しました。
- イベント参加者からは「とちあいかはシンガポールのどのお店で売っているのか」といった声が聞かれ、また、FAMツアー参加者からは、農家民宿での宿泊や調理体験など、農村での滞在に高評価を得ました。
- 今後も、とちぎの農村の魅力を国内外に発信し、インバウンド誘客や農産物の需要拡大へつなげていきます。



観光いちご園との交流
 (シンガポール)



農家民宿での調理体験
 (FAMツアー)

(農村振興課)

(5)農村地域の活性化

② 農村地域での新たな所得向上機会の創出

○ 農産物直売所セミナーを開催

- 県内の農産物直売所の運営者やJA、市町を対象に農産物直売所が地域の交流・活性化拠点として活躍し続けることを目的としたセミナーを開催しました。
- 農産物直売所をめぐる情勢や、課題解決に向けた実践事例など、今後の経営のヒントとなる講演となり、参加者からも多くの質問が寄せられました。
- 今後も、県内外の優良事例等を共有するとともに、農産物直売所が抱える課題解決や運営改善に向けた取組を支援していきます。



セミナー会場



(株)グリーンデイズ
林代表取締役の講演

(農村振興課)

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

○ 食の街道の連携及びデジタルコンテンツの活用による誘客促進(安足地域)

- 「足利佐野めんめん街道」では、さらなる顧客拡大の取組として、「とちぎ渡良瀬いちご・フルーツ街道」と街道間コラボのスタンプラリーを実施しました。
- 街道間の連携は、対象地域が広がるだけでなく、両街道が提供するサービスが異なり、ファン層が重複しないことから、双方で新たな誘客につながりました。また、参加店舗の紹介記事をWeb掲載し、街道の魅力を発信するデジタルコンテンツの充実を図りました。
- 今後も魅力ある企画を提案し、誘客促進による地域の活性化を進めていきます。



両街道のスタンプラリー応募用紙



(安足農業振興事務所)

(6)安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

① 担い手が活躍する生産基盤の整備

○ 農地整備事業上石那田地区の事業完了 (河内地域)

- 平成27(2015)年に採択された県営農地整備事業上石那田地区のほ場整備事業が完了し、大型機械に対応した効率的で生産性の高い営農が可能になりました。
- 事業を契機に農事組合法人石那田ファームを立ち上げ、工事を行った全ての水田を集積しました。
- 令和6(2024)年度、権利者会議を開催し、権利者からの最終同意を得て、事業を完了しました。



権利者会議



竣工記念碑除幕式

(河内農業振興事務所)

○ 千渡地区において工事に着手(上都賀地域)

- 千渡地区(鹿沼市)は、58.7haの区画整理と一級河川武子川の用地の創設を行うとして、令和4(2022)年度に県営農地整備事業として採択されました。
- 事業区域を決める地区界確定や換地計画原案の承認を得て、令和6(2024)年度からいよいよ工事へ着手し、13ha程の面整備を実施しました。
- 令和11(2029)年度事業完了を目指すとともに、目標年次(事業開始10年後)までに、担い手による農地集積率80%の達成に向け支援を行い、スマート農業技術の導入や水田を活用した露地野菜などの園芸作物の生産拡大を促進していきます。



工事着手前



工事中

(上都賀農業振興事務所)

(6)安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

① 担い手が活躍する生産基盤の整備

○ 整備された畑地帯における園芸作物の推進（芳賀地域）

- ・ 益子町小泉・本沼地区は平成30(2018)年度からのほ場整備工事で農地の大区画化と農道・パイプラインの整備を行い、営農の効率化と安定化が図られました。
- ・ 整備後のほ場では、じゃがいもやさつまいも、にんじんなどの高収益作物が新規導入され、今後の作付け面積の拡大により、さらなる収益性の向上が期待されています。
- ・ 今後も、農地の集積・集約化を促進していきます。



ほ場整備後の畑地帯



ジャガイモの収穫状況
(芳賀農業振興事務所)

○ 地下かんがいシステムを活用した露地野菜栽培の推進(芳賀地域)

- ・ 令和2(2020)年度に地下かんがいシステム(水田における露地野菜の規模拡大等を図るため、土壌水分の最適化や水管理の省力化に資するシステム)が導入された益子町のほ場において、令和6(2024)年度はたまねぎとにんじんが作付けされました。
- ・ 当システムにより、たまねぎの肥大時期やにんじんの発芽時期など、天水によらず、地下から用水の供給ができるため、効率的な栽培管理が可能となりました。
- ・ 今後は、当システムの他地域への導入を促進し、露地野菜の栽培面積の拡大を図っていきます。



かんがい状況



にんじんの収穫状況
(芳賀農業振興事務所)

(6)安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

① 担い手が活躍する生産基盤の整備

○ 未来をひらくほ場整備(下都賀地域)

- 下都賀地域では、持続可能な農業・農村の実現を目指し、ほ場整備事業によるスマート農業に対応した基盤整備や水田の畑地化に取り組んでいます。
- 安塚・上長田地区では、ほ場整備を契機として、省力化・低コスト化につながるスマート農業技術の普及拡大を進めることとし、塚崎・田間地区では、すべての農地を畑地化し、野菜などの高収益作物の作付拡大を図っていくこととしています。
- 今後も、地域農業を次世代へつなぐため、将来の担い手が営農しやすいほ場整備を進めていきます。



スマート農業先進地域視察



露地野菜の作付状況

(下都賀農業振興事務所)

○ 地域発展へ向けて一步前進！大谷東部地区(小山市)と中谷地区(野木町)で起工式開催(下都賀地域)

- 令和6(2024)年10月、県営農地整備事業の大谷東部地区及び中谷地区において、工事の安全と円滑な事業進行を祈念して、起工式が行われました。
- この2地区では、土水路や古くなった水路の管理が難しく、農道も狭いため、効率的な農業経営に支障が出ていました。
- この事業では、水田を大きく区画整理し、効率的に利用することを目指しています。これにより、園芸作物の生産を増やし、この地域で豊かで競争力のある農業を実現することが期待されています。



【大谷東部】整備前の農地



【中谷】整備前の農地

(下都賀農業振興事務所)

(6)安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

① 担い手が活躍する生産基盤の整備

○ 県営中山間地域総合整備事業馬頭中部地区の事業完了(塩谷南那須地域)

- 本事業は農業生産基盤と農村生活環境を総合的に整備する事業で、地元からの要望を受け平成27(2015)年から開始し、10か年の年月を経て無事に事業完了となりました。
- ほ場の大区画化、農道の拡幅及び農業用排水路の整備と併せて、集落道の整備、活性化施設及び防火水槽の設置を進めたことで、農村地域の維持や活性化が図られました。
- 本事業を契機として、自然豊かな里山である和見地域が次世代につながるより活気ある地域となるのが期待されます。



圃場整備後



活性化施設
(塩谷南那須農業振興事務所)

○ 市の堀用水で工事に着手(塩谷南那須地域)

- さくら市から真岡市までの6市町を流れる「市の堀用水」は、農業用水路では県内有数の受益面積である約2,584haの水田を潤していますが、施設の老朽化により用水安定供給に支障が生じています。
- 令和6(2024)年度から本格的に工事に着手し、分水ゲートの設置1箇所、0.7kmの農業用水路の改修工事を実施しました。
- 今後も、計画的に老朽化した農業水利施設の保全対策に取り組んでいきます。



工事前の用水路



工事後の用水路

(塩谷南那須農業振興事務所)

(6)安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

① 担い手が活躍する生産基盤の整備

○ 農地バンクを活用した農地整備事業地区の農地集積・集約化の取組(那須地域)

- 下深田地区では、農地整備事業を契機とした農地の流動化を進めるため、話し合いを重ねました。また、当事務所及び大田原市が連携し、地域に寄り添い農地バンクの活用に向けた支援を行いました。
- 地区面積の8割で農地バンクとの契約が行われ、担い手を中心とした安定的な営農体系が構築されるとともに、地域には機構集積協力金が交付されました。
- さらに、令和6(2024)年度から多面的機能支払交付金による農地維持活動の取組も開始され、持続的な地域農業の発展が期待されます。



農地バンク制度説明会



農地集積・集約状況図
(那須農業振興事務所)



(6)安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

② 地域資源の保全と活用

○ 草刈研修会「新しい形の草刈りに取り組む」の開催

- ・ 農村人口の減少が進む中、農村地域の振興のためには、農業者はもとより非農業者も含めた地域住民が一緒になって活躍できる環境づくりが重要です。
- ・ 研修には、多面的機能支払活動組織を中心に約500名が参加し、非農業者が高機能草刈機等を使用しながら農業者とともに草刈り作業に参加する新しい形の体制づくりについて理解を深めました。
- ・ 今後も、地域全体で農村環境を守っていく体制の構築に向け、機運醸成を図っていきます。



講演の様子



会場の様子

(農村振興課)

○ 川を元気にする作戦会議「やったらいいのに協議会」の開催

- ・ 水産庁事業「みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業」の一環として、若者の発想を漁場運営に生かすための協議会「やったらいいのに協議会」が栃木県漁業協同組合連合会の主催により開催されました。
- ・ 協議会には、県内外の内水面漁業に関心のある大学生、県内漁協及び県が参加し、県内漁協が抱える課題の整理、解決に向けた方向性等を検討するワークショップが行われました。また、アユの串打ち体験を通じて漁協の活動に触れ、理解を深めました。



ワークショップの様子



アユの串打ち体験

(農村振興課)

(6)安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

② 地域資源の保全と活用

○ センターの牧草畑でレンゲの蜂蜜を採取！

- 畜産酪農研究センターでは、肥料価格の高騰に伴う経営への影響を少しでも緩和するため、牧草とレンゲを混播することによる化学肥料低減効果や、飼料としての栄養価向上について調査しました。
- さらに、地域の養蜂家に協力いただき、混播草地がミツバチの蜜源となる可能性も併せて調査し、レンゲ混播草地の多様な機能性について確認しました。
- 自給飼料の確保や養蜂振興、さらには未利用地の有効活用に資する、三方良しの参考事例となることを期待しています。



牧草畑のレンゲと
ミツバチ



ミツバチの巣箱管理
(畜産酪農研究センター)

○ 農業被害防止対策サポーター事業を活用した獣害対策の推進

- 獣害による農業被害に悩む中山間地の集落へ鳥獣管理士を派遣し、農業者などを対象とした獣の習性や被害対策を学ぶ勉強会や侵入防止柵の設置指導会の開催を支援しました。
- 足利市名草地区集落でサル被害対策について2回、佐野市飛駒地区でイノシシ・シカ被害対策について2回の計4回の勉強会が開催され、鳥獣管理士から実践的な獣害対策を学びました。
- 今後も、獣害対策の理解促進を図るとともに、効果的かつ主体的な取組を支援していきます。



佐野市飛駒地区 侵入防止柵設置指導会
(安足農業振興事務所)

(6)安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

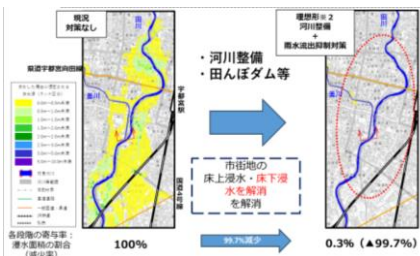
③ 農村地域の防災力の向上

○ 田川流域における農村地域雨水流出抑制対策基本指針を策定

- 近年の気候変動による水災害リスクに備えるため、農村地域が有する雨水貯留機能を活かす取組を進める必要があります。
- このため、田川流域の関係者で構成する検討会を設置し、田んぼダムの整備など、具体的な取組の方向性を示した基本指針を策定しました。
- 流域における普及啓発や情報発信、対策への意識醸成を図りながら、社会に意識される仕組みとして定着するような大きな取組につなげていきます。



指針検討会



浸水被害軽減効果

（農地整備課）

○ 防災重点農業用ため池の防災対策の推進

- 農村地域の防災・減災力の強化を図るため、防災重点農業用ため池の防災工事を進めています。
- 県では令和6(2024)年度、10か所の農業用ため池で防災工事に向けた測量設計を行い、6か所の農業用ため池で廃止工事に着手しました。
- 一方、事業主体の人員や技術力の不足を補うため、専門的な知識を有する栃木県土地改良事業団体連合会（県土連）の職員による代行施行の取組も進められています。



ため池の廃止工事



代行施行の様子

（農地整備課）

(6)安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

③ 農村地域の防災力の向上

○ 農村地域防災減災事業赤沢川地区の事業開始(河内地域)

- 赤沢川と一級河川田川の合流部付近において、農地の冠水や近隣宅地の床下浸水が直近10年間に3回も発生し、農作物や農地・農業用施設にも被害が発生したため、令和6(2024)年度から排水樋門と水路を整備する事業を開始しました。
- 現在、測量設計、用地買収を進め、令和7(2025)年11月頃から排水樋門工事に着手する予定です。
- 今回の整備により、洪水による災害の未然防止を図るとともに、安定した農業経営の確保が期待されます。



整備前の地区の状況



整備前の旧排水樋門
(河内農業振興事務所)

○ 農村地域の防災力強化に向けて！田んぼダムの講演会＆現地実演を開催(下都賀地域)

- 近年の豪雨や台風の激甚化・頻発化を踏まえ、流域治水対策の一環として、田んぼダムの取組を推進しています。
- 管内における取組推進のため、田んぼダムに関する講演会のほか、田んぼダム設置の実演をしました。
- 農村地域のより一層の安心安全のため、更なる田んぼダムの普及啓発に努めます。



田んぼダム
排水ます設置中の様子



田んぼダム排水ます設置後
(下都賀農業振興事務所)

(6)安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

③ 農村地域の防災力の向上

○ 50th anniversary 深山ダム(那須地域)

- 一級河川那珂川上流に位置する深山ダムは、半世紀もの長きにわたり水資源の安定供給を通じて那須地域の農業や人々の生活を支えています。
- 建設50周年を迎え、現地見学会の開催や記念ダムカードを配布することで、ダムが果たしている役割についての理解を図るとともに、老朽化が進む施設や設備の点検、補修・更新等の整備など、安全性や信頼性の維持に向けた取組を一層推進しています。
- 次の半世紀も利水ダムとしての役割を果たし続けられるよう、利害関係者と連携しながら、適正な維持管理に努めていきます。



深山ダム



現地見学会の様子
(那須広域ダム管理支所)

○ 田んぼダムの推進(安足地域)

- 佐野市内の多面的機能支払組織の理解と協力のもと、田んぼダム現地講習会が実施されました。
- 田んぼダムの導入について、参加者からは肯定的な意見が多く聞かれ、拡大が期待されます。
- 田んぼダムの取組が管内へ波及していくよう、市と連携しながら活動を進めていきます。



現地研修会開催状況



排水マス設置状況

(安足農業振興事務所)

(6)安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

④ 安心して農業や生活ができる農村環境づくり

○ 中山間地農業を支えるスマート農業の推進

- 令和5(2023)年度から、茂木町深沢地区において、中山間地での活用が期待されるスマート農業技術の実証事業を行っています。
- 令和6(2024)年度は、スマートフォンにより、田んぼに行かずに給水・止水ができる水管理システムや獣害防止電気柵の異常を知らせるシステム等を実際に生産現場に導入し、効果検証を行いました。
- 今後は、実証結果をもとに、農業者の皆さんが導入を検討する際の参考となるような普及啓発資料を作成し、スマート農業の導入を推進していきます。



水管理システム



電気柵モニタリングシステム

(農村振興課)

○ 農産物等の盗難防止に向けた取組

- 農産物等の盗難が増加傾向にあることから、県全体で防犯意識の向上及び盗難対策の強化を図るための防犯活動を支援しました。
- これにより、県内に8つの地域協議会が設立され、各地域において警察署や関係機関と連携し、研修会の開催や防犯パトロールの実施など、地域ぐるみの取組が実施されました。
- 今後も、関係者一体となって防犯意識の向上に向けた啓発などに取り組んでいきます。



啓発チラシ



防犯研修会

(経営技術課)

(6)安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

④ 安心して農業や生活ができる農村環境づくり

○ 県土連（ため池サポートセンター）と連携した、農業用ため池の維持管理に係る研修会を開催

- 令和6(2024)年12月に、農業用ため池の保全管理や防災工事に対する理解促進を図るため、農業用ため池の維持管理に係る研修会を開催しました。
- 研修会には、農業用ため池の管理者等約70名が参加し、農業用ため池の維持管理の手法や防災工事に関する新技術の紹介が行われたほか、樋門の自動開閉装置の実演会が開催されました。
- 今後も、ため池サポートセンターと連携し、農業用ため池の適切な保全管理に向けた取組を推進していきます。



研修会の様子



樋門の自動開閉装置

(農地整備課)

○ 農作物等盗難防止合同パトロールの実施（河内地域）

- 河内地域では、農作物等盗難の抑止効力の強化や盗難防止対策への認識向上を図るため、「梨」と「いちご」の出荷最盛期前の8月と12月に、警察・農業団体・行政合同のパトロールを実施しました。
- 農業者からは「パトロールは心強い。施錠管理も徹底したい」や「防犯カメラを設置したい」といったコメントがあり、防止対策の認識も向上しています。
- 今後も、農業者が安心して農業経営ができるよう関係者一丸となって防犯対策に努めていきます。



合同パトロール出発式



警察官による注意喚起
(河内農業振興事務所)

(6)安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

④ 安心して農業や生活ができる農村環境づくり

○ 築き上げた農業水利施設を次世代へ！計画的な保全管理に向けた研修会を開催(下都賀地域)

- 令和6(2024)年12月、農業水利施設の管理者等を対象に、下都賀地域農業水利施設保全管理推進委員会を開催しました。
- 市町や土地改良区の関係者約60名が参加し、日常管理や機能診断、診断に基づく対策工事の基礎知識や手法を学びました。
- 今後とも、農業水利施設を適切に維持保全し、次世代へ継承していくため、広く情報を発信し、関係者の意識醸成を図っていきます。



保全管理推進委員会の座学の様子



機能診断にかかる現地研修を実施(下都賀農業振興事務所)

○ 土地改良区の体制強化に向けた研修会の開催(下都賀地域)

- 令和7(2025)年1月、栃木県南部地方土地改良事業推進協議会主催による研修会が開催され、下都賀・安足地域の土地改良区や市町などから約80名が参加しました。
- 研修会では、土地改良区で課題となっている賦課金の未収金対策等について、講演が行われ、全国土地改良事業団体連合会の講師から適切な会計処理の確保が重要とのアドバイスがありました。
- 今後の土地改良区の取組として、土地改良施設の更新費用の積立や「草刈隊」の結成などについての講演があり、参加者からは多くの関心が寄せられました。



研修会の様子



県土連の講演(下都賀農業振興事務所)

(6)安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

④ 安心して農業や生活ができる農村環境づくり

○ 高根沢町における多面的機能支払交付金の広域活動組織の設立(塩谷南那須地域)

- 令和7(2025)年2月、多面的機能支払交付金の広域活動組織「高根沢町広域協定農地保全会」が設立されました。
- 本活動組織は、41農事組合・4土地改良区・農業委員会で構成され、町の農振農用地の8割をカバーする全町的な農地保全活動が行われます。
- 今後は、高機能草刈機の導入や草刈隊の結成による新たな草刈体制の構築を目指しており、町の農業振興に大きく寄与することが期待されます。



設立総会の様子
(塩谷南那須農業振興事務所)

○ 那珂川町中山間地域活性化協議会の取り組み(塩谷南那須地域)

- 那珂川町中山間地域活性化協議会は令和2(2020)年度に設立され、中山間地域の保全活動に広域的に取り組んでいます。
- 令和6(2024)年度は、草刈りが困難になった方や集落の共同活動を支援するため、草刈応援隊が結成されました。シルバー人材センターや県内大学、集落間が連携し、畦畔や農道水路等の草刈りが実施されました。
- 今後は草刈応援隊のさらなる活用周知を図るとともに、引き続き中山間地域の農業生産の維持発展に寄与することが期待されます。



草刈応援隊の活動



現地検討会
(塩谷南那須農業振興事務所)